

「後継者問題シンポジウム」の報告

芝 忠

5月13日、横浜市の神奈川新聞本社ビルで'85神奈川異業種交流プラザ(略称:KIK)と山形県米沢電機工業会の共催による「後継者問題シンポジウム」が開催されました。両団体とも、1985年に設立され、20周年を迎えた記念に企画されたものです。両団体は18年前から地域間交流を行っており、全国的にも注目される成果を挙げています。

今回「共通性があるが、深刻な問題である『後継者問題』」に焦点が絞られました。発表は米沢側から(株)タカハタ電子安房毅社長、(株)ザクテクノロジーコーポレーション(但し本社が横浜)安部慎一取締役、広重プレス工業(株)浅間秀蔵社長、KIK側から旭光通信システム(株)酒井不二雄社長、京浜産業(株)酒匂雅信社長の計5人。大変生々しい発言が相次ぎ、さらに会場参加者からも事例が多数紹介され、この手のシンポジウムとしては珍しく緊張感が溢れた内容となりました。

まず共通していたのは、金融機関との関係で、セイフティーネットなどといっても現実には個人資産の担保を求められるため、一般の定年と同様、経営者も60歳に達すると、必ず「後継者は誰か」と「担保として」要求されます。そのため身内もしくはそれに近い人を選ぶ傾向となります。「原則として身内を後継者にしない」と考えていた人も、最近親戚筋の社員を入れ、様子を見るという方針に転換しました。また身内でない場合、果して会社の借入れに対して、実印を押してくれるのかどうかの心配があります。

次に、自身の社長就任は40歳前後の人が多かったですが、息子といえども社内での実績や貢献度合いが重要で、自身が70歳前後まで、「厳しく育成する」という意見が多く、また本人は社長を頼らず実力で、社内や取引先・金融機関等の評価を獲得して欲しい。他社に修行に行かせる場合、あまり長いと他社の魅力に引かれすぎるので、5-10年程度が良いのでは。一般的には60歳で内定し、70歳で引き継ぐという10年計画。

後継者側からすると引き継いだときの社員の平均年齢が問題で、一番若手が自身だったという経験者が多く、社員構成を変えていく「戦い」が大変だった。「大学を出ているのに、こんなことが出来ないのか」という職人さんから言われたという経験。身内にしろ、身内でないにしろ、後継者に社長を引き継いだら、出来るだけ早く自身は引くべきで、会長職に長いと軋轢が起こるのではないかと。オーナー社長でない場合、自身の実績や指導力を示すことが、後継の指名を受ける条件。激動の時代、思い切った経営方針で、業績を回復させた事例や、一方、株の保有が少なく残念ながら経営権の交代に繋がり、金融機関からの評価が高かった開発事業が頓挫し、他社へ譲渡され、他社はそのお陰で急成長してしまった事例もありました。引き継ぐ場合、自社の商品の魅力をどう高めるのが問題で、自身の努力がまだ中途半端と考えている場合は、「引き継ぎそのものに不安がある」という発言もありました。

自身が社長となったときの心境や、後継を指名するときの条件は、やはり会社を全体的に背負って立てるかどうかで、ナンバー2としての能力発揮が要求されます。広い視野や財務、社内での融和、最近ではIT化への対応、サラリーマン根性では限界。逆にそうした条件や能力を発揮する“場づくり”を、今の経営者側が創っていく工夫が求められています。後継者側も各種の経験が重要で、出来るだけ短期間で学ぶことが望ましい。また「経営とは何か」という学習や、理論も必要という意見もありました。参加者数は30数人と限定されたため、却って各社の内輪の話が数多く出され、非常なインパクトがありました。異業種交流会同士の意見交換の場として、他でも活用すべきでしょう。

神奈川県異業種グループ連絡会議“総会”のお知らせ！！

日時：H17年6月21日(火) 14:00~16:30、17:00~懇親会(会費¥2,000.-)

場所：神奈川中小企業センタービル6F 大研修室 (横浜市中区尾上町5-80)

議題：14:00~15:00総会・2004年度事業結果報告、会計決算報告、会計監査報告

・2005年度事業計画(案)、会計予算(案)、新役員(案)、新役員紹介

15:15~16:30特別講演 株式会社ウイル代表取締役社長 牧村建夫氏

・「アナログ放送からデジタル化への移行ビジネスに挑戦するあるシニアの戦い」

問合せ：神奈川異グ連事務局 芝、八幡、渡部 TEL045-633-5142 FAX045-633-5194

主要な“かながわ異グ連”のプロジェクト、及び研究会の活動報告、PR

新機能環境適応型舗装プロジェクト

織方BC

5月8日附、神奈川新聞のトップ記事として、本プロジェクトが掲載されました。要旨は「新素材混合の耐久性・透水性・保水性等に富んだ画期的道路舗装材で、いずれは舗装材の標準化を目指す」であった。現在、幕張テクノガーデンの大駐車場は数年の施行となりますが、受注額は累計で約2億円弱の予定額となり、かなり大型工事になる見込みのものです。新聞で紹介いただき、各方面からの引き合いが増加し、課題は市場開拓からさらに施行体制の整備がクローズアップされています。

オールディーズ・シニア・クラブ

手づくりお弁当屋のご利用を！

小林BC

今、当クラブでは、元気な起業家が話題を集めております。

介護ヘルパー派遣業が軌道に乗ってきた福田氏、手作りのお弁当屋を開業したばかりの斎藤さん、また、退職(9月予定)したら会社を作りたいと張り切っている75歳の比企氏らです。皆様のご支援・ご協力をお願いいたしますが、とりわけ今回は斎藤さんのお弁当屋を紹介致します。

① 店の名前:「おべんとう 四季」 ② 場所: JR 関内駅東口の駅前。TEL&FAX : 045-441-5633

③ お弁当: ランチを紹介します。

・メニューは2種類で週間予定表があります。暖かい味噌汁付(配達の場合は魔法瓶入りですが、瓶は引き取らせて頂きます)です。 ・料金は税込み1個500円。

・2個以上ですと配達も致します。ただ、当日午前10時までにご注文下さい。

④ パーティ用の料理・お弁当もご予算に合わせて出来ますので、是非お申し付け下さい。

既に神奈川中小企業センターの一部の方にはご利用いただいておりますが、御蔭様で好評です。皆様のご満足が長続きますよう頑張りますのでよろしくとの店主の決意です。

日韓ビジネス協議会

高橋BC

第54回日韓ビジネス協議会(5/25)は出席者18名で開催した。

- 会社および取扱商品の紹介(携帯用アルカリイオン 整水器など)
 - ・・・松木商事(株) 代表取締役 松木國俊氏
 - 最近の神奈川異グ連の動向について(その1): 事務局長 芝忠氏
 - メイン講演:「特許移転に関して」・・・(財)神奈川科学技術アカデミー特許流通アドバイザー 小森幹雄氏
- 次回、第55回の開催予定は下記のとおりです。

1. 日時: 6月29日(水) 午後3:15~6:15

2. 場所: 神奈川中小企業センター5F会議室

3. 会費: 1,000円(懇親会費を含む)

- 最近の神奈川異グ連の動向について(その2): 事務局長 芝忠氏
- 申込み: TEL: 045-311-0094、MAIL: mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

新防食技術活用プロジェクト

田中繁夫BC

日時: h17年6月23日(木) 14:00~17:00

場所: 神奈川中小企業センター6階 特別研修室

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80

TEL: 045-633-5142、

FAX: 045-633-5194

- 1、昨年度の活動総括と本年度の活動計画
- 2、テクニカルショーの成果
- 3、会員企業の最近情報(中川芳高、原口進、永井崇昭、矢嶋望、他)
- 4、参加企業の情報交換

三浦海洋深層水を楽しむ会

八幡AD

5月の定例会が5/21開催された。高梨会長自慢の海洋深層水利用の「おから」を使用したマグロ挽肉によるハンバーグの試食・品評を行った。葱、にら、にんにくを入れたらとか、揚げたらよい、価格は適当等々相変わらず喧嘩譁。

会長からは、豆腐、豆乳、油揚げ、がんもどき、にがり等々のバラエティーセット販売(クール宅急便扱い)の紹介があったが、豆腐類だけでなく三浦らしく塩辛、トロ、大根などの詰め合わせ(勿論海洋深層水ラベル商品)を企画すべしと提言しきり。

7/23(土)にNPO日本海洋深層水協会による当地での全国フォーラムについて、森野理事より協力要請があり、われわれは前述商品を含め提案商品を用意することで頑張ることになった。

シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的とし、原則第二火曜日に定例会を開催しています。

6月定例会は6月14日(火)、ビジネスコーディネーターの島津俊之氏に「中小企業のための新しい法律～中小企業新事業促進法の内容と活用方法について」と題してお話いただきました。今年度施行され、創業から経営革新まで中小企業の施策を幅広く網羅することになった“中小企業新事業促進法”の概要とともに、その活用方法、および当法律の目玉となる“新連携”についても詳しく説明いただきました。

シフト21では皆様参加を歓迎しております(初回参加は無料)。 hda00467@nifty.ne.jp 有村まで

まんてんプロジェクト

千田BC (JASPA社長)

本社オフィスが昨年10末に完成したので、神奈川中小企業センター・インキュベーションルームの契約が切れた5月末をもって、JASPA事務所を下記に移転しました。

〒240-0051 横浜市保土ヶ谷区上菅田1317-3

TEL: 045-370-3371 FAX: 045-37-3376

今年度からJASPAは正式に異グ連の法人会員になることを決定した。また、まんてんグループの一会員としてまんてんに登録することを決定した。JASPAとまんてん及び異グ連の関係明確化のためである。

情報提供

異グ連事務局 (広報)

JASPA 千田社長が、下記フォーラムのシンポジウムⅢにパネラー出席されます。

新事業創出全国フォーラム 主催: (独) 中小企業基盤整備機構

日時: 7月21日 (木) 10:30~20:30

場所: 東京全日空ホテル

特別講演「地域パワー」 三木谷浩史、池田弘、堺屋太一

シンポジウムⅠ: がんばる地域

シンポジウムⅡ: 地域からニッポンを変える

シンポジウムⅢ: 地域活性化がニッポンの元気

詳細及び申し込みは <http://www.jnb2005.com> を参照してください。

アルメニア協力プロジェクト

加藤BC

異グ連は、6月1日独立行政法人国際協力機構 (JICA) と共催でJICA 横浜国際センターにて、15名を集めて第一回アルメニア共和国事情説明会を開催した。

アルメニア共和国の中小企業者に対しての5S、生産管理、品質管理の指導及び中小企業庁職員への助言を行うための現地事前調査に6月5日から17日までの2週間、JICA に協力して当会議から2名 (全体では6名) を派遣する。それに先立ちアルメニア人の国際基督教大学教授のグラント・ポゴジャン教授を招いてアルメニアの事情説明会を開催したもの。

アルメニア共和国(*1)は、旧ソ連邦のコーカサス地方に位置し、グルジア、アゼルバイジャン、トルコ、イランに囲まれた人口335万人ほどの国全体が海拔800メートル以上の高地にあり、海には面していない。旧ソ連時代には、銅を産出し、宝石加工技術があり、良質のブドウを原料とするワイン、コニャックを生産する。国民一人当たりのGDPは、800ドルほどといわれており、産業界に対して日本が得意とするものづくりへの支援が期待されている。また、海外への輸出商品の開発も課題のひとつとなっている。

説明会は、芝異グ連事務局長より、趣旨と今後のプロジェクト活動について説明の後、グラント・ポゴジャン教授より1時間30分にわたり、アルメニア共和国の風土や歴史、生活、産業の実情の説明を受けました。また、JICAからは、現在の海外支援に関する方針説明やアルメニア共和国への協力メニュー(*2)などの説明があった。出席者は、異グ連らしくバラエティに富んだ業種や分野の方々であった。派遣者が帰国次第、報告会を兼ねて第2回説明会を開催の予定である。

*1、アルメニア共和国は、ノアの箱舟の漂着したといわれるアララト山 (トルコ領) がどこからでも見えるキリスト教国である。在留邦人は、ほとんどおらず大使館も開設されていない。また、日本に滞在するアルメニア人もグラント・ポゴジャン教授を入れて3名といわれている。

*2、来年1月以降には、JICAがアルメニア共和国の中小企業経営者及び中小企業庁職員を招待して3週間ほどの本邦研修を計画している。更に今回の事前調査の状況により、短期派遣し、現地企業を直接指導することも考えられる。

産学官交流サロンのコーナー**第8回三浦半島経済人サロン! 報告** 八幡AD

今回は、横須賀TMO=横須賀商工会議所地域活性化プロジェクトの企画・支援を積極的に進めている地元、湘南短期大学より商経学科の内藤教授が出席、まちづくりに果たす同短大の姿勢を披露された。今年から始めた「まちづくりアイデアコンセプト」の参加案内 (9/9 締切り) と今後毎年継続開催によるアイデアの蓄積によって「通過型のまち」である横須賀を「交流型のまち」に変換するためにも若者 (短大の学生) の果たす役割と意欲の重要性が力説され、参加者より積極的な質疑・意見がかわされた。

また、雑賀社長 (異グ連副議長) より横須賀未来塾の活動報告がなされ、ガリバー旅行記と浦賀の関係について興味深い資料が提出された。このように当サロンの話題は地元に着した話題が中心であるが、三浦半島は日本を動かすという歴史認識からスケールは大きなものがある。

第9回かわさき経済人サロン予告 事務局 (広報)

中小企業の産学連携、IT化の必要性が叫ばれて久しいが、実行がなかなか進まないのが実情である。今回は産学連携やIT化を自ら進めつつある方にお話を伺い、今後の方向を皆様と話し合いたいと思います。

日時: 6月28日 (火) 18:00~20:15

話題提供:

①川異研での産学連携への取り組み

川異研副会長 小林健一氏

②集客力が驚異的にアップするワークスプログ

(有)スターンソリューション代表 持田 剛氏

場所: KSP西棟3F 310会議室

問合せ: 異グ連 (芝、田中、小野川) 045-633-5142

第8回神奈川新産学公交流サロン・よこはま

事務局（広報）

商店街の衰退が報じられますが、懐かしい大道芸や、ほろ苦い思い出の飲み屋街で忘れられない「野毛商店街」も東横線桜木町駅の廃止などの影響で苦戦しています。協同組合の理事長に取り組みをお話いただき、これを基に、これからの商店街と大学との産学連携や、活性化策について話し合いたいと思います。

日時：6月16日(木)18:00～20:30 場所：横浜エクセレントⅢ（社）経営開発情報機構9F会議室

横浜市中区南仲通3-35 TEL045-212-5546

話題提供：野毛飲食業協同組合 理事長 小川恒雄氏、異グ連事務局長 芝 忠氏（特に利用者として）

「横浜・野毛飲食街の活性化支援策」

芝 忠

神奈川新聞の連載記事「私の処方箋」シリーズ5月25日付けで掲載されたものを転載します。このシリーズは、神奈川新聞の経済欄の紙面改革に基づく新企画で昨年3月から開始されたものです。毎週水曜日欄に8人程度が3ヶ月に1回程度、順次書いているものです。私自身は6回目の連載です。

以前から商店街の活性化策に関心があり、具体案を研究したいと考えていました。とりわけ今回のテーマである「横浜・野毛地域飲食店街」の活性化については、利用者という立場から研究してみたかったテーマです。880字と限られた字数の中で、外部の素人がどこまで分析かつ提案が出来るか心配でしたが、事前に「野毛飲食業協同組合」の幹部に原稿を送り、検討して頂いたところ、色々なご意見を頂きましたので、若干の修正を加えて新聞社に送稿しました。ただ予定の掲載日より2週間も早く掲載されたため、最後の修正項目（協同組合が取り組んでいる内容を紹介した）の採用には至りませんでした。私は単なる評論に終わらせる考えは全くなく、今後具体的に協同組合や個々の経営者と共同して「野毛地域活性化プロジェクト」を設立して取り組む予定です。皆様の協力方をお願いします。

野毛地区の振興 — 『屋台村』でにぎわいを、店の魅力増は利用者と一緒に —

四月、快晴の中で「野毛大道芸」二十周年が行われ、百万人を超える人々が溢れた。しかし日常的には近年の東急桜木町駅廃止（平成十六年二月）や、みなとみらい地区の発展などに押されて野毛一帯は行き交う人の数が減少し、飲食街は大変深刻だ。四十年通った者からすると、大変寂しい。この八年間で私の行きつけの店が七店舗も閉鎖した。みなとみらい線で県庁職員は「憩いの場」を横浜駅西口へ移動したという。野毛地域の衰退は最近のことではなく、以前から兆候があった。だから東急の廃止に反対運動が起きた。しかし何故、古い飲食街が寂れていくのか、客層の変化や生活様式の変化、消費動向や時代の変遷。経営者と利用者の双方の高齢化、店舗の老朽化、サービス手法の遅れ、あるいは後継者問題もある。利用者も年をとり、店まで通いきれない。昔流の飲ませ方では最近の若い人には受けない。また女性客への新しい対応も必要。隣合わせた3人の女性客が「初めてきた。焼きとり屋へ入ったら経営者の対応が冷たい。カラオケを歌いたくても店を選べない」という。新住民（近隣で都市型マンションが激増している）や新たなシニア層の開拓。東京からの誘致。街中の休息場所や共同トイレも重要。店に入る前に共同トイレを利用したら、他店のママから「利用者以外は使うな」と叱られた。帯広・小樽・八戸・宇都宮など各地に新しい型の「屋台村」が出現している。野毛も駐車場が増えており、屋台村を活用し、新しい業態の発掘や経営者の育成が考えられる。屋台村は地域との新たな出会いを創造しており、客との会話や客同志の触れ合いが効果的。近代的なトイレを装備。どの店にもパンフが置いてある。野毛では店のドアを開けているところが増えた。大学との「商学交流」や若手の育成、経営革新の動きも注目される。さらに店の魅力を増すため利用者と一緒に店づくり、新メニュー・新サービスの開発。PRの工夫、利用者同志の交流。利用者の中から「個店アドバイザー」を大量に委嘱し、「店の魅力を語る」交流大会。ボランティアによる「野毛案内人」。高額な投資でなく、ソフト中心の改善策がある筈。野毛地域は全国でも有数の飲食街の集積地域でユニークな店が多い。息子が新宿の飲食店で働いていたとき、先輩が次々に敗退してくるのを見て、独立する自信を無くしたという。こういう若者達にも夢を与えたい。

了

PR かながわコンソーシアム事業2005

（神奈川中小企業センター交流支援課からのお知らせ）

H17年度かながわコンソーシアム事業採択テーマ28件（新製造、医療福祉、環境、IT）の発表会があります。

日時：H17年6月22日（水）13:30～17:30

場所：神奈川中小企業センタービル14F多目的ホール

基調講演：新連携で切り開く中小企業の未来（13:30）

政策研究大学院大学 教授 橋本久義氏

テーマ発表とパートナー募集（15:25～17:30）

参加費：無料（17:30からの交流会は¥2,000.-です）

申込み：交流支援課045-633-5192

PR 異グ連会員かながわ女性起業家クラブ

パワー全開の女性起業家クラブです。

6月18日（土）例会 18:30～20:30

“趣味や資格を生かして地域の中で活動する”

7月16日（土）例会 18:30～20:30

“育児や介護と働くことの両立を考える”

8月20日（土）例会 18:30～20:30

“貿易ゲームで企業の知恵を学ぼう”

場所：フォーラムよこはまセミナールーム2

参加費：500円

問合せ：045-774-2711 事務局（チャイルド遊 竹沢）

ご投稿を歓迎いたします。かながわ異グ連事務局（広報）tel045-633-5142、fax045-633-5194